

## TS（トータル・サティスファクション）を目指して②④

### 「シャーデンフロイデとの対峙」

校長室担当

「苦情殺到！桃太郎」という AC ジャパンの広報動画を御存じでしょうか。本当に世相をついており、色々考えさせられました。おばあさんが川を流れてきた大きな桃を拾うと、「窃盗だろー」「謝罪会見は？」「子どもがマネしたらどうするんだ！」「通報！通報！」「懲役何年？」等と、その場で厳しい批判にさらされる状況がリアルに表現され、私の心に強く突き刺さった動画です。意図としては、おやみに正義を振りかざして、相手を傷つけることをやめようということだったようですが、これに対しては、賛否両論が示されています。多くは、「こういうことはやめなくてはならない。」という共感的な意見と、「それでは言論の自由が奪われ、適切な批判ができない世界となる。」という否定的な意見に分かれていました。こうした二元論に口をはさむことはしませんが、今の時代の人間が抱える課題を感じました。

「シャーデンフロイデ」という言葉を御存知でしょうか？本当に簡単な表現で言うと、「他人の不幸を喜んでしまう感覚」のことです。これには脳内物質のオキシトシンが深く関わっており、最近では妬みと言う感情を高めてしまう物質であることも指摘されています。正義を振りかざした時に、これに似た感覚が生まれます。私もあるデパートのうまいもの大会で列を作って並んでいる時に、割り込んで入った人を注意したことがあります。瞬間的には、「いいことをした！」、酷い言葉で言うと、「当然だろ！」という快感に似た感覚に支配されたのを確かに覚えています。その感覚が「シャーデンフロイデ」に近いと感じています。

人間には様々な感情が存在します。その中には素晴らしいものから本当に醜いものまであります。自分でもそう思うのですから、価値観の異なる人が多ければ多いほど、それだけ様々な感情が存在することを理解しておかなければなりません。私が素晴らしい感じる行動も、他の人の視点から見た場合には間違っていると映る場合があります。先ほどの私の行動についても、その方が何か法律違反をしているわけではないのに、長い時間待っている自分のイライラ感だけから生まれた「許せない」という気持ちを正義感にすり替え、振りかざしただけのものではなかった

のかと今更ながら考えさせられています。「もしかしたら何か事情があったのかもしれない。もっと相手の気持ちを汲んだ注意の仕方がもっとあったのではないか。」と反省もしています。このことから、誰かのちょっとした行動が必要以上に気になる時には、自分自身と向き合うことをま  
ずしなければならないと私は感じています。やみくもに注意や指摘をする自分自身は、一時的な個人の感情やコンプレックス、あるいは自身の  
正義や正当性を単に証明したいという承認願望だけで動いていないか、「負けた気がする」といった小さい自分に負けて動いていないかを自問自  
答する余裕が必要です。こういったものが正義感にすり替わるときに、冒頭でお伝えした「苦情殺到！桃太郎」のような状況が生まれるのだと  
思います。注意や指摘をしたくなった時に、この正義感の正体はもしかしたら自分の心の闇の部分ではないかという感覚をもって日々周囲の方々と接していく、これこそが「シャードンフロイデ」に打ち勝つ方法であり、この SNS トラブルが頻発する現代における「生きる力」ではないでしょうか。教育とは生き方を示すことです。私たち教員が自分自身悩みながらも、日々「生きる力」を向上させ、子どもたちにそれを示すことで、いい学校を創りましょう、一緒に。(令和4年7月29日)

#### 本校教職員として目指す方向性（確認）

※令和3年4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める